

宮崎層群高鍋層（鮮新統）の冷湧水性化石群集の新露頭

間嶋隆一*・柴田知則**・田口公則***・斉藤 哲*・和田秀樹****

*横浜国立大学教育人間科学部・**東京都文京区・***神奈川県立生命の星・地球博物館・****静岡大学理学部

A new exposure of a cold-seep assemblage of the Pliocene Takanabe Formation, Miyazaki Group

Ryuichi Majima*, Tomonori Shibata**, Kiminori Taguchi***, Satoshi Saito* and Hideki Wada****

*Geological Institute, Yokohama National University, Yokohama 240-8501 (majima@edhs.ynu.ac.jp); **Bunkyo-ku, Tokyo; ***Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Odawara 250-0031 (tagu@nh.kanagawa-museum.jp); and ****Institute of Geosciences, Shizuoka University, Shizuoka 422-8529 (sehveda@ipc.shizuoka.ac.jp)

Key words: cold-seep assemblage, carbonate concretion, Miyazaki Group, Pliocene

宮崎層群高鍋層（上部鮮新統）が分布する宮崎県児湯郡新富町の久家神社周辺には、主にツキガイモドキガイ類 (*Lucinoma* sp.) からなる冷湧水化石群集を含む炭酸塩コンクリーションが露出する（池田ほか, 2003; Majima *et al.*, 2003）。2005年1月の国道拡幅工事で新たに出現した大露頭から、冷湧水性化石群集と炭酸塩コンクリーションの分布に新知見を得た（図1, 2）。この露頭は、工事終了時に

被覆されるので、ここに調査結果を記録する。なお、詳細な記載は今号掲載の露頭解説を参照されたい。調査には国土交通省、新富町教育委員会、宮崎県立総合博物館、長友巧建設、明治コンサルタント(株)にご協力いただいた。本研究には文部科学省科学研究費（基盤(A)16204041; 若手(B)15700532)を使用した。記して感謝致します。

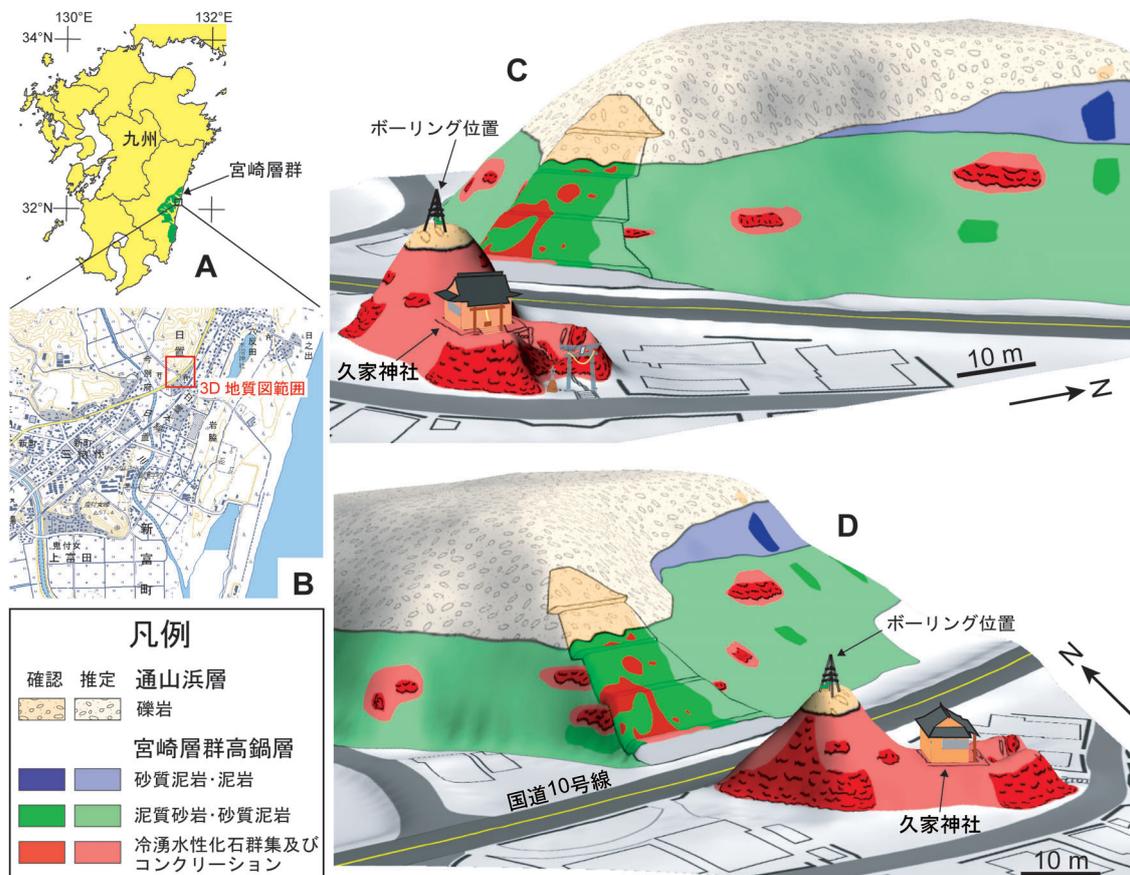


図1. 調査露頭位置図 (A, B) と久家神社および新露頭の3D地質図 (C, D)。丘全体が炭酸塩コンクリーションからなる久家神社の周囲にも、炭酸塩コンクリーションが点々と分布する。久家神社裏山に立つやぐらは図2-Gに示すコア写真のボーリング掘削点を示す。Bの地形図は国土地理院発行1/25,000地形図「日向日置」を使用。

文献

Majima, R., Ikeda, K., Wada, H. and Kato, K., 2003. An outer-shelf cold-seep assemblage in forearc basin fill, Pliocene Takanabe Formation, Kyushu Island, Japan. *Paleontological Research*, 7, 297-311.

池田和寛・間嶋隆一・和田秀樹・加藤和浩, 2003. 宮崎層群高鍋層の冷湧水性化石群集. 化石, (73), 1-2.

(2005年4月4日受付 2005年4月26日受理)

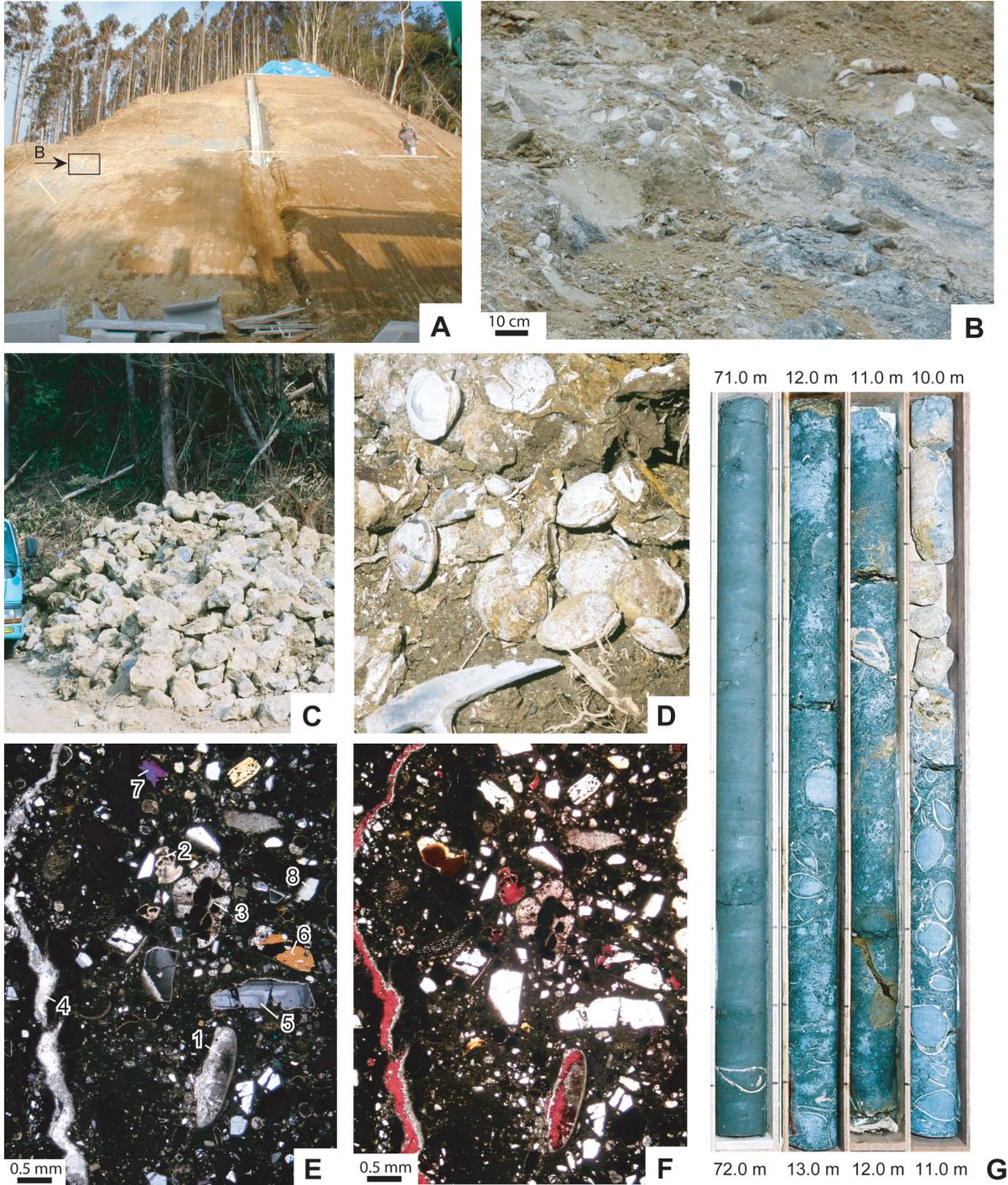


図2. 道路工事現場 (A ~ D) と炭酸塩コンクリーションの薄片写真 (E, F), およびボーリングコア (G) の写真. A, 国道10号線の拡幅工事により法面が作られ出現した大露頭. 露頭左上の灰色の部分が新鮮な炭酸塩コンクリーション部. 矢印は写真Bの撮影範囲. B, 法面上の炭酸塩コンクリーション部に見られるツキガイモドキガイ類 (*Lucinoma* sp.) の産状. C, 崖から切り出された炭酸塩コンクリーション塊の山. D, 工事現場にはツキガイモドキガイ類の大型合弁個体が多数散乱していた. E, 炭酸塩コンクリーションの薄片写真 (クロスニコル). 岩石は有孔虫や軟体動物起源の破片に富む (1, 貝殻片. 2と3, 有孔虫殻. 4, 方解石脈. 5, 斜長石. 6, 斜方輝石. 7, 単斜輝石. 8, 石英). F, アリザリン-S染色剤によって染色した薄片写真 (オープンニコル). 生物骨格片の一部と方解石脈が赤く着色している. 基質部は弱く着色されているが, 主に微細な苦灰石からなることが確認されている. G, 2004年12月に久家神社裏山から採取したボーリングコア. 深度10~15mでは炭酸塩コンクリーション中に大型二枚貝化石が密集し, 炭酸塩コンクリーションと貝化石は深度72m付近まで断続的に産出することが確認された.